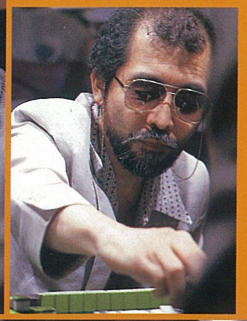

の形でテンパイをとっていた。しかも、四萬はフリテンだった。ちなみに伊藤の手は

だった。結局、流局間近か、伊藤が灘に振り込んでこの局は終わった。ギャラリーはこの時びっくりしていた。四萬を読み切ったことにではなく、ギリギリまで和了にかける姿に驚いた。こんな麻雀は皆、初めて見た。ドラもなにもない手で、勝負に行くべきではない。今までの麻雀のセオリーにはこんなのはなかった。

しかし、このギリギリまで攻めることによって次局、その結果が現われた。形をともなって現われた。

佐々木はこの後も決定打ともいえる770点を南1局に和了った。ところがそれでも攻撃の手はゆるまない。南2局、3局、とドスン、ドスン!! と重爆のような凄まじい勢いで和了り続けた。皆、呆気にとられた。こんな凄じい攻撃は見たことがなかった。

そんなギャラリーの後方で桜井が「うん、うん。」としきりに頷いていた。

佐々木は怒濤の勢いで優勝を勝ちとった。

桜井は佐々木以上にうれしかった。

自分はもう打ち手としては引退している。

しかし桜井の雀風を忠実に佐々木は再現してくれた。20歳の佐々木が誇らしかった。

祝賀会では、もう誰も佐々木になめた口をきかなかった。

第4期最強位として遇され、尊敬された。

樹　津嘉田三起子
行　柏原純
彦　福井仁
人　吉竹寛晃